

第55回近畿地区国立大学体育大会(近畿Y・O・C2017)

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第55回 近畿地区国立大学体育大会		
●日程	平成29年8月7日 (月) ~ 平成29年8月8日 (火)		
●会場	ならでんアリーナ		
●講師	岩木 太郎 様、飯尾 勝紀 様、渡邊 浩二 様、宮里 両 様、 高野 晃平 様、谷 恵里奈 様、大野 哲広 様、小畑 治 様、		
●スケジュール	平成29年8月7日 (月)		
	9:15 開講式 11:00 実技開始 16:00 コート上でのメカニック講習(ハーフコートの3on3の見方、速攻でのリードのポジションの入り方) 17:00 座学講習 19:30 夕食懇親会		
	平成29年8月8日 (火) ~		
	10:00 実技開始 第4試合終了後 閉講式		
●担当試合	平成29年8月8日 (火) 10:00 ~		
	対戦カード	京都大(女子)	VS 大阪教育大(女子)
	主審	主審 四谷 和久	副審 高畑 昇平 氏
	講師/主任	岩木 太郎 氏	
	講評	ゲームとしては、難しいものではなかったが、その中で自分なりにどうトライして臨めただろうか。初日の実技・座学の講義を受けて、今日にあたってどのくらい意識できただろうか。 ケースとして、トレイルの時に、自分のプライマリーから始まるドライブに対する見方をもっとこだわって欲しい。(動画を観ながら)ペネトレイトが必要な場面でも、足が止まっている。それによってファールだったものを取り上げられていない。 リードの時にも、もっと思い切って動いて良い。右に行っても良い場面や、1歩2歩の動きでもアングルが変化することを、試してみて感じてほしい。	
自己の感想	インターハイを終えた直後の時期に行われ、そこで伝達された最新の内容も講習の中で惜しみなく教えて頂きました。 実技では、2人での分担としてハーフコートの3on3を用い、ケースとして、速攻の場面でリードがショートカットしてプレイを待ち受けることを練習し、より良い判定をするために長くプレイを見る事が大切である、と強調されていました。 また、これまでポジションにこだわる事が多かったのですが、アングルを確保することが重要である、と動画等を用いながら何度も話され、新しい伝達内容を自分のものにできていないことを実感しました。 今回、初めてブロック単位での講習会に参加させて頂き、他府県の仲間や上級の方たちからたくさんの刺激を受けながら、上級を目指す気持ちをさらに強くするとともに、レフェリーの技術だけでなく人格の向上もまた必要であることを痛感しました。 参加者中唯一の30代でありながら、このような機会を下さった、実業団連盟、大阪府審判委員会の皆様から感謝申し上げます。		

第 55 回 近 畿 地 区 国 立 大 学 体 育 大 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第55回 近畿地区国立大学体育大会		
●日程	平成29年8月7日 (月) ~ 平成29年8月8日 (火)		
●会場	ならでんアリーナ		
●講師	岩木太郎様 飯尾勝紀様 渡邊浩二様 宮里両様 高野晃平様 谷恵里奈様 大野哲広様 小畑治様		
●スケジュール	平成29年8月7日 (月)		
	10:15 開講式	18:30 夕食懇親会	
	10:30 講師講話	21:30 終了	
	平成29年8月8日 (火) ~		
	10:00 実技開始 16:40 閉講式		
●担当試合	平成29年8月8日 (火) 13:20 ~		
	対戦カード	兵庫教育大学 VS 京都教育大学	
	主審	主審 石川(和)	副審 太田(大)
	講師/主任	谷 真里菜様	
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・審判としての見栄えが落ち着いて堂々としていて見えた ・トレイルでリバウンドへの参加をもっとしてほしかった ・トレイルで動き続けて判定しようとしていた ・相手審判の視野確認不足 ・リードでセットアップポジションからクローズダウンへの判断と活用を工夫してほしかった ・ホール中心になるのではなく、目の前のプレイを捉え続け上手く活用すべき ・3ピリがしんどそうだった、フィットネスの強化 ・(ビデオを見ながら)現象に対してRSBQはどうだったか ・ポストプレイの判定、ホールをもらう前、突き出し 	
自己の感想	<p>1日目で講義していただいた逆サイドからの速攻に対するNEWリードの入りや1対1の捉え方に特に意識をおいてチャレンジをしていくとカンファレンスを行った。実際に試合ではドライブから始まる1対1に関してはプライマリーを意識し判定に繋げることができた。しかし運びやポストプレイでは遠くから見てしまったり、ストレートラインになってしまうなど、捉えるポジションをもっと工夫すべきだった。また、自分がリードのとき、相手レフリーが捉えられている6番エリアポストプレイに対し右へ足を運び逆に左サイドが手薄になってしまいリバウンドに対応できなかったプレイがあった。相手審判の視野とフロアバランスをもっと高く意識しなければならない。座学では映像による具体的なプレイに対しての確認ができたので、実践において意識を強くし続けることができた。このような機会に感謝しこの経験と課題を次に活かしたい。</p>		